

進んで活動する姿

続けて最後まで
する姿目的・目標を持って
活動する姿

友だちと学び合う姿

深く考える姿

実践事例

小学部

『学習したことを生かして買い物へ行き、所持金にちょうどの代金がないとき、不足する金種の一つ上の位の金種の硬貨を1枚出して、自分が食べたい料理の材料を買おう』

1. 児童の実態と望む姿

- ・小学部4年 女子(2年生男子1名、女子1名の3名の学習グループ)
 - ・品物の表示金額を見て、所持金の小さい金額の硬貨から支払い、ちょうどの金額をそろえることができる。しかし、所持金に1円硬貨または、10円硬貨が足りないとき、所持金を全て出して支払う姿が見られた。そこで本題材では以下の望む姿を設定した。
- 所持金にちょうどの代金がないとき、100円硬貨1枚と10円硬貨10枚、10円硬貨1枚と1円硬貨10枚が等価関係にあることがわかり、10円硬貨が不足しているときは100円硬貨を、1円硬貨が不足しているときには10円硬貨を1枚多く支払う。

2. 教材の概要 『食べたい料理の材料を買おう』

- ・料理の写真から食べたい料理を選び、それに必要な野菜や肉などの材料の写真を、おつかいメモを見ながら順番にレジへ持って行き一つずつ買うようにした。材料を全部そろえて魔法の鍋に入れると、食べたい料理が完成(料理の写真に変身)する仕組みで取り組んだ。

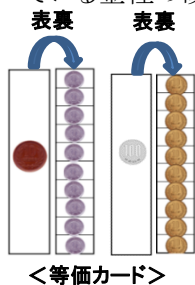
3. 授業のポイント

ポイント1

指導内容を理解するための教具と働きかけの工夫

【100円硬貨1枚と10円硬貨10枚、10円硬貨1枚と1円硬貨10枚が等価関係にあることを理解し、ちょうどの代金がないときに、一つ上の位の金種の硬貨を1枚多く出すと代金が足りることを理解するためにはどうすればよいか？】

- ・10円(100円)硬貨1枚は、1円(10円)10枚と同じであることを等価カードを操作して確認し、一つ上の位の金種の硬貨には、不足している〇(〇十)円分が入っていることを確認する。
- ・所持金の小さい金額の硬貨から出し、不足している硬貨があるときは、一つ上の位の金種の硬貨を1枚多く出し、不足している金種の硬貨は財布に戻す支払い方を確認する。
- ・発展の支払いの場面で、所持金にちょうどの代金がないとき、10円(100円)硬貨を1枚多く出して支払ったことや不足している金種の硬貨を戻したことの理由を問う。



どうして10円(100円)を1枚多く出したの？

<発展場面での問いかけ>



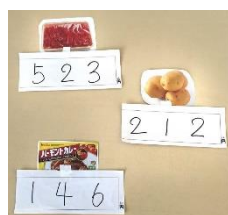
1円(10円)が足りないから。
10円(100円)1枚に〇(〇十)円分入っているから。

授業構想チェックシート 内容チェック 教具について③⑤ 働きかけについて②⑤

ポイント2

料理の材料を全てそろえるまで続けて取り組むための工夫

【料理の選択や材料を買い物に行く順番をわかりやすくするためにはどうすればよいか？】



さん おつかいメモ	
①	
②	
③	
④	
⑤	
⑥	
⑦	

<おつかいメモ>

- ・食べたい料理の要望を取り入れ、メニュー表の冊子を準備して、料理やデザートの写真を事前に提示する。
- ・食べたい料理を作るのに必要な材料と買いに行く順番がわかるように、おつかいメモを準備する。

授業構想チェックシート 内容チェック 教材について② 教具について④
意欲チェック 教材について⑤